

令和6年度 社会福祉法人めだかすとりいむ事業報告

【法人の理念と運営方針】

理念 『せっかく生まれてきた一度きりの人生をこの街の中で一緒に豊かに生きていきたい』

この想いを具体的に一つ一つ形にして支え続けていきます

運営方針

- ・就労支援・一生懸命に働くことを通しての社会参加を支える
 - ・生活支援・地域の中で自分らしく豊かに暮らすことを支える
 - ・余暇支援・好きなこと・趣味を見つけて楽しむことを支える
 - ・子育て支援・発達の遅れや心配のある子どもたちの療育と地域の中での子育てを支える
- この4つの支援を充実させることによって、障がいのある方の地域での生活を支えていきます

令和6年度 重点目標の振り返り

『報酬改定による経営状況の変化に対応する』

令和6年度は、法人全体で支援費の収入増となりました。

要因としては、

- ・報酬改定により支援費の単価や加算部分に変化があったこと
- ・『地域区分』が変わり、単価があがったこと
- ・各事業所の利用者の利用日数が増えたこと が挙げられます。

児童施設では、2事業所とも新規利用者を増やす努力をしました。

また、すいーつばたけ、GHでは安定した利用率となりました。

『一人一人のライフステージにあった支援体制の構築』

特にすいーつばたけ利用者の高齢化やそれに伴う支援内容の変化が顕著になってきた一年でした。

その人らしく働くことを支える『すいーつばたけ』であり続けることは基より、働くことが難しくなってきた利用者への支援や居場所づくりについて検討する必要性が出てきました。職員会議や支援会議で問題提起をした結果、職員に意識づけができました。

障がいのある人が、どのライフステージに移行しても継続した支援を受けられるよう、相談窓口の明確化や情報共有の方法、役割分担についても話し合う機会を持つことができました。

1. 社会福祉法人の経営の安定化

人件費の支出増がありましたが、それ以上の支援費収入がありました。

すいーつばたけでは、原材料を使い切る工夫、包材の流動的活用など支出を抑える工夫をしてきました。

また、どの部門も支援費収入を増やす努力をすると同時に、水光熱費等の経費削減を心掛けました。

令和6年度は、JKA の助成金申請が通り、授産機器の交換という大きな事業を達成することができました。

2. 人材育成、研修

① 職員面談の実施

仕事へのやりがい、支援の悩み、同僚とのコミュニケーションなど、職員の率直な気持ちを知る有意義な機会となりました。面談内容を基に各自の目標設定をすると同時に、日々の支援や作業について先輩からアドバイスを受け、部門内で OJT を実践することができました。

一人一人の目標や数年後のなりたい自分を具体的にイメージし、部門長と共有できたことは、職員一人一人のモチベーションにつながったと実感できました。

② 各研修の実施（サポーターズカレッジ研修、外部研修、法人内研修）

計画的にサポーターズカレッジで継続研修ができました。また、埼玉県社会福祉協議会や SELP 協の全国規模の研修に参加し、職員会議での発表で情報共有することができました。

③ 接遇研修の実施（虐待防止研修を含む）

④ 職員の資格取得の支援

今年度は該当者なし

⑤ 計画的なサービス管理責任者の育成

次期サービス管理責任者を養成するため、受講要件を満たす職員のリストアップと優先順位をまとめ、それに従い該当者が受講しました。

3. BCP の実践的運用、感染症対策委員会の開催

毎月開催される安全防災委員会にて、各部門からミーティングであがった事案を報告し具体的防衛策を話し合いました。その結果を各事業所の BCP に反映させていきます。

令和6年度は、新たに感染症対策委員会を定期開催し、感染予防について話し合いをもちました。

＊ 9月15日 安行町会の避難訓練に参加

＊ 11月15日 理事長講師による保護者向け防災学習会を開催

4. 理事会・評議員会の定期開催

理事会	第1回	6月 7日
	第2回	12月13日
	第3回	3月 7日
評議員会	第1回	6月28日
	第2回	3月21日

5. 運営協議会の開催

11月16日開催 理事長、運営協議委員6名、事務局3名の参加

- ・マイナンバーカードと障害者手帳の紐づけ
- ・川口市歯科検診への要望
- ・メンバー給料の仕組みについて
- ・職員人材確保の困難さと職員給料について
- ・防災について など活発な意見交換がされました。

6. 事業所別実施計画

すいーつばたけ

- ・利用者工賃は、通常の規定通りに支払うことができました。
- ・令和7年度の新規利用者はいませんでした。
- ・利用者の高齢化に伴う課題については主任ミーティングで問題提起し、職員への意識づけと課題抽出にむけて動き出しました。
- ・授産機器の整備については、JKA助成金による授産機器（13台）を新規に交換することができました。
- ・ライオンズ農園の整備と今後の展望について話し合いをもちました。
- ・SELP 入り口の看板がリニューアルしました。
- ・pay pay を導入し、特に若い客層から好評でした。

グループホーム

- ・『メゾンめだか沙羅の木』『オリーブの木』ともに8月より土日運営を開始しました。
- ・MICS を積極的に活用し余暇の充実につとめました。
- ・世話人の確保に苦慮した一年でした。その中でも丁寧なフォローを続け、定着する世話人も多くいました。
- ・医療受診など、保護者から GH 職員へその役割を移行することができました。

相談支援センターめだか

- ・11月19日 川口市プロポーザル
プロポーザルの結果、川口市からの委託を受託し、5年間の事業継続の契約を結びました。
- ・今後5年間で、法人として相談支援センターの機能をどうしていくかの検討の時期に入りました。

地域活動支援センター「めだかSUN」

- ・働くことが難しくなった利用者の受け皿として、他事業所と連携しながら日中活動の充実につとめました。

- ・外出活動の機会を多く設けました。
- ・押し花製品などの売り上げを伸ばし『ウキウキボーナス』の支給額を増やすことができました。

居宅介護事業所「ぐー・ちょき・ヘルパーMICS」

- ・登録ヘルパーを増やすべく、様々な媒体を使って募集を行いました。その結果、2名の新規登録ヘルパーが決まりました。
- ・ヘルパーの時給について、今後も検討が必要です。

児童発達支援事業「めだかのいっぽ」

- ・長期休暇前後の開所日を増やし、年間延べ利用者数を増やすことができました。
- ・幼稚園、保育園訪問を実施しました。
- ・産休などで職員体制が安定しない年でした。
- ・親子登園、きょうだい保育の見直しを行い、児童、家族が通いやすい環境を模索しました。
- ・めだかのいっぽ専用HPを作りました。近く公表予定です。
- ・言語聴覚士による定期的勉強会、相談会を開催しました。

放課後等デイサービス「めだかのいえ」

- ・利用日の調整や待機児童への声掛けを実施し、年間延べ利用者数を増やすことができました。
- ・めだかふぁみりいハンドベルクラブと共催のクリスマス会を開催しました。
- ・家族参加型イベント（トランポリン）を行いました。

7. 地域との結びつき

- ・じゃがいも収穫祭【6月1日】、
- ・小学生福祉教育【8月2日】
- ・地域包括支援センターとの連携「ひまわり（認知症）カフェ」の定期開催
- ・ラムネス共歩大会の開催【3月15日】
- ・地域の学校から『夢ワーク』『街たんけん』『職業体験』などの受け入れ
- ・安行町会地域清掃への参加【安行町会6月9日、安行原町会6月16日】
- ・安行町会合同避難訓練への参加【9月15日】

8. NPOめだかふぁみりいとの連携

社会福祉法人めだかすとりいむとNPO 法人めだかふぁみりい共催イベントの開催